

1. 第3次総合計画における施策の体系									
目指す都市像(政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち					
施策	番号	4	名称	歴史文化を活用する観光の振興					
主担当部	総合政策部		主担当課	観光課		部長名	藤岡 孝		
関係部			関係課	企画政策課					
2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)									
この施策の目的	本市が持つ豊かな歴史文化遺産と優れた文化的景観を観光に積極的に活用し、本市への来訪者を増加させる。他の地域の人々との交流やふれあいの機会が増えることにより、まちの賑わいや活気が生み出され、市民の間に自分のまちへの誇りと愛着がめばえる。								
3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)									
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について					
	<p>中南和地域には世界遺産にも匹敵するような多くの文化遺産が存在するが、多くの市町村に分散しているため、効果的な活用が行われていない状況にある。自治体の枠を越えた一体化・広域的な観光展開が実施し、宿泊等を伴う滞留時間の長い観光コースの開発に共同で取り組む必要がある。</p> <p>平成24年は古事記編さん1300年に当たり、本市においてもこれに併せた冠イベントを実施しているが、このような記念年を</p>			<p>観光客数は、東日本大震災の影響からは少しずつ回復基調にあるが、日本への海外観光客の大半を占める中国、韓国との外交関係は依然として厳しい状況にあり、以前の数字にまでは戻っていない。八木駅前に開設した観光交流センターは開館2年目に入り、中和幹線沿いには新たに全国最大規模のファーマーズマーケットが開設予定であり、本市を拠点とする中南和の一体的な観光展開には追い風となっている。</p>					
これまでの成果	中南和広域観光協議会については構成市町村の観光地を巡りながら3回の会議を実施し、一体感が醸成されつつある。観光交流センターは開館2年目にもかかわらず順調に来館者数を伸ばしている。本市最大のイベントである「春の神武祭」は期間を一週間に拡大し内容も充実させたため、奈良の三大祭として注目を集めつつある。								
4. 指標及びコストの推移									
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
	施策指標①(成果指標)	観光客数	3,690,539	3,700,000	3,977,817	4,000,000	4,100,000	4,400,000	
	施策指標②(成果指標)	観光ボランティアガイド案内件数	365	370	344	380	390	420	
	施策指標③(成果指標)	観光センター来訪者数	211,403	240,000	258,234	270,000	280,000	300,000	
	施策指標④(成果指標)								
コストの推移(単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		164,638	170,807	163,800	168,126	193,957		
	歳入(b)	受益者負担額							
		国や県からの補助金その他	18,291			25,446			
	(a)-(b)=一般財源		146,347	170,807	163,800	142,680	193,957		
	正職員	従事者数(単位:人)	17.95	18.20	18.05	21.25	20.35		
		人件費(c)	112,439	112,895	111,964	131,814	126,231		
	トータルコスト(a)+(c)		277,077	283,702	275,764	299,940	320,188		

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	本市主要イベントの多くは、万人以上の来場者数を誇っているが近隣市町村からのものが多く、消費を伴う県外からの誘客に努めなければならない。しかしながら文化財・歴史遺産を利用したイベントは充実しており、本市が歴史文化豊かで美しい町であるというイメージの確立には資する大である。また、観光交流センターを中心に広域的な観光展開に努めており、中南和の拠点都市としての本市の役割・重要性を高めている。				
	市政全般に対する貢献度かどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	市内外から多くの観光客が訪れることによって様々な交流が生まれ、自分の住む町が特別であるという意識を住民が持つことができる。そしてわが町に誇りを持つようになり、シビックプライド・愛郷心が生まれる。地域の住民のこの意識付けがまち起し・地域振興に関するすべての基本であるといえる。橿原ブランドの確立は、転入の増加、転出の抑制に繋がるとともに、地価の維持・上昇、賃貸住宅家賃にも好影響を与える。				
6. 施策の課題						
この施策の課題	世界遺産登録に向けて、市として全庁的に一貫した戦略性とブランドイメージの確立が必要であり、各事業の連携的、系統的な取組みが一層求められている。中南和地域の観光資源の一体的・広域的な活用について、その具体的な方法を確立しなければならない。本市の観光振興事業については、イベント中心になっているが、宿泊を伴う観光客の誘致にはHPの充実や魅力のある観光ルートの開発、効果的な広報活動など地道な取組にも重心を移していく必要がある。自転車道、駐車場の整備、案内板・説明板の設置などハード面の整備も必要と思われる。観光振興とともに観光消費を増加させる仕組みも必					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	「春の神武祭」「橿原夢の森フェスティバル」「藤原京ラビリンス」といった本市主催のイベントは、内容を大幅に改善することによってそれぞれ来訪者数を加速度的に増やしている。また、マスコミや交通事業者なども積極的に連携することでイベントの誘致・支援に取り組み、本市への誘客に努めている。本市の知名度を全国的なものに引き上げるため、総合的・戦略的な観光宣伝の展開を検討していくことが必要となっている。				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）						
1次評価	説明	平成24年は古事記編さん1300年であったが、この記念年を十分には活用しきれなかったという反省点がある。平成25年は横大路1400年であるが、以後はこのような記念歴史年を観光客来訪のきっかけとして最大限に利用し、冠事業を実施するものとする。中南和地域の自治体と協力した一体的な観光展開について、具体的に事業に取り組んでいくものとする。 既存の観光資源を十分に活用しきれない面があるので、歴史的な由縁などをより深く研究し、観光客の興味をひくよう魅力的なPR方法を検証する。また、本市の全国的な知名度を上げるため、奈良観光について関心の高い首都圏や中京圏において、継続的かつ内容の濃い広報活動の展開を検討するものとする。				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直ししながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ソフト事業、内部管理・維持管理事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
企画政策課	ソフト 義務	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売・管理 ・冊子「藤原京と大宝律令」、「榎原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) 		2	c	見直しな がら続け る	D
榎原の魅力発信事業	○ ソフト 任意						
	内部管理・維 持管理	<ul style="list-style-type: none"> ●販売促進及びPR ・イベント等開催時における、来場者へのアピール ・県内外での書店等での販売の実施 					
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課	ソフト 義務	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史文化の発祥の地として、本市には多くの遺跡・史跡が存在し、全国的な注目度も高い。こういった環境を最大限に利用し、市自らが予算を計上して事業を実施するのではなく、協力的な受入れ態勢を整えることでマスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体など実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ・奈良県中南和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ・フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ・国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。 	100	1	a	見直しな がら続け る	B
イベント誘致事業	○ ソフト 任意						
	内部管理・維 持管理						
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課	ソフト 義務	各種行事助成事業 市内各地で開催される伝統行事を①広域的地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。	3,911	2	b	見直しな がら続け る	C
各種行事補助金交付事業	○ ソフト 任意						
	内部管理・維 持管理						

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
						貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
観光課		ソフト 義務	1.「春の神武祭」行事助成事業 4月3日に行われる「神武天皇祭」に合わせて開催される「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭り実行委員会に事業費の助成を行う。 2.「榎原夢の森フェスティバル」行事助成事業 例年10月に行われる。平成24年度で開催11回目を迎えた。実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行う。 3. 藤原京イベント開催事業 95年に開催された「ロマンピア藤原京」の後継事業として榎原商工会議所に事務局を置く実行委員会が開催してきた「ムーンライト藤原京」を平成23年度より本市の主催事業として実施する。夜間から昼間のイベントとし、家族連れを対象に藤原宮跡という立地を活かした巨大迷路を開催。	41,694	1	b	見直しなが ら続ける	B
観光イベント実施事業	○	ソフト 任意						
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課		ソフト 義務	・(一社)榎原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○榎原市観光協会運営補助金 ○榎原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・榎原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)	46,105	2	b	縮小する	C
(社)観光協会運営・事業助成補助事業	○	ソフト 任意						
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課		ソフト 義務	電話、メール等での観光問い合わせの回答、パンフレットの作成配布、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究、各種情報発信、都市圏での誘客事業(観光協会への委託事業)などを継続して行っている。八木駅前のナビプラザでは、各種観光調査や中中和の観光情報の収集、イベントスペースでの展示などにより、様々な広域的な情報発信を行っている。平成24年には中中和広域観光協議会を立ち上げ、中中和地域の一体的な観光施策の展開にも取り組み始めている。	12,355	1	a	拡大する	A
観光啓発事業	○	ソフト 任意						
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課		ソフト 義務	観光交流センターを機軸とする複合施設(観光・子育て・相談・男女総合参画・市民活動等)を管理運営する。	49,482	2	a	見直しなが ら続ける	
榎原市観光交流センター管理運営事業	○	ソフト 任意						
課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
観光課		ソフト 義務	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の設置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原京跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務	10,153	1	a	拡大する	
観光利便施設事業	○	ソフト 任意						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業	
事務事業名	檀原の魅力発信事業						
担当課名	企画政策課				課長名	庵坂 和史	
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち				
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興				
予算事業名	企画調整事務費						
事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	市民・県民・国民			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売・管理 <ul style="list-style-type: none"> ・冊子「藤原京と大宝律令」、「檀原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) ●販売促進及びPR <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等開催時における、来場者へのアピール ・県内外での書店等での販売の実施 		
事業の目的	日本最初の都城「藤原京」をはじめとする檀原の魅力を発信することで、檀原に関心を持つ人や、来訪者の増加を図る。また、市民の方には、檀原市が有する歴史遺産の素晴らしさを再認識してもらう。						
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業			
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業						
	説明	市の魅力をPRする事業であるため、市が関与すべきである。					
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない		
		説明	既に作成した書籍の販売が中心であるため、当初見込んだ収益が得られなくなる上に、在庫を抱えてしまうことになる。				
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	販売数	1,104	-	631	700	700	700
活動指標①	イベント販売回数	3	4	5	5	5	5
活動指標②	販売店舗数	6	5	9	9	9	9
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出(直接事業費)(a)		99	0	0	0	0
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		99	0	0	0	0
	正職員	従事者数(単位:人)	0.25	0.25	0.10	0.10	0.10
		人件費(c)	1,566	1,551	620	620	620
	トータルコスト(a)+(c)		1,665	1,551	620	620	620
単位当たりコスト	計算式等						
備考(これまでの実績等)							

PLAN 計画

DO 実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	古道図書および古道絵はがきについては、現在も平均的に売れている。 その他の書籍等については、売上げが伸び悩んでいる。						
	上位施策 への貢献 度はどう か	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市外の人に市の歴史・史跡等に関心を持ってもらうことで、来訪者の増加につながり、観光の 振興に寄与すると考えられる。						
評価	効率性評価	3	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	販売を促進していくことで、歳入の増加をはかる。						
ACTION	具体的にどうする ことにより(手段)	書店での販売や設置施設を広げるとともに、広報を行い販売促進に努める。そのことにより、広く檀原 市をアピールできるとともに、来訪者の増加につながると考えられる。							
	どんなことが期待 できるか(効果)								
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	D		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	市が実施するイベント等や書店での販売を引き続き行うことで、今後も販売を継続していく。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業		
事務事業名	イベント誘致事業							
担当課名	観光課			課長名	山崎 貴浩			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち					
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
予算事業名	観光対策費							
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度	
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	・我が国の歴史文化の発祥の地として、本市には多くの遺跡・史跡が存在し、全国的な注目度も高い。こういった環境を最大限に利用し、市自らが予算を計上して事業を実施するのではなく、協力的な受入れ態勢を整えることでマスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体など実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ・奈良県中南和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ・フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ・国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。			
事業の目的	・市以外の多様な主体と連携してイベント等に取り組むことで、本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、本市を観光に訪れることを目的とする。							
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業				
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業				
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業							
	説明	市は人的な応援・支援で積極的に協力がするが、財政的な負担はほとんど行わない。						
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
		説明	マスコミ等が実施する事業については、広報効果が大きいので、事業を実施しないことによる橿原市の露出は大幅に減ることになる					
指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	観光客総数		3,690,539	3,700,000	3,977,817	4,000,000	4,100,000	4,400,000
活動指標①	関連イベント実施件数		4	5	12	13	13	15
活動指標②								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		100	100	100	600	600	
	歳入(b)	受益者負担額						
		国県補助金等その他						
	(a) - (b) = 一般財源		100	100	100	600	600	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
		人件費(c)	3,132	3,102	3,102	3,102	3,102	
	トータルコスト(a)+(c)		3,232	3,202	3,202	3,702	3,702	
単位当たりコスト	計算式等							
備考(これまでの実績等)	MBSラジオウォーク(近鉄)、歴史フェスティバル(奈良新聞)、地域連携ウォーク(歴史街道推進協議会)、HANARART等							

PLAN 計画

DO 実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、本市の知名度が上がり、観光客が増加すると考える。業者間の情報伝達により新たな事業展開や事業手法が取り入れやすくなる。						
	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	多様な主体と連携した観光啓発は、観光行政の根幹をなす事業として、観光の振興に大きく貢献している。						
評価	効率性評価	1	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	ほとんどが財政的な負担を伴わない事業であるので軽減の余地はない。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	予算措置が伴わない事業であるので、このような内部の統計数値としては注目を集めることが少ないが、事業そのものの効果は大きい。マスコミや諸団体との繋がりを強くすることで、事業を誘致し、観光客を増加させる。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	B		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	情報収集方法や事業誘致のノウハウを蓄積する。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業		
事務事業名	各種行事補助金交付事業							
担当課名	観光課			課長名	山崎 貴浩			
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち					
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
予算事業名	各種行事助成事業費							
事業の開始年度	昭和		年度	事業の終了予定年度	平成		年度	
対象	広域的地域催行事、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事(春の神武祭、夢の森フェスティバルを除く)			事業の内容説明	各種行事助成事業 市内各地で開催される伝統行事を①広域的地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。			
事業の目的	檀原市内で開催される広域的催行事、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事を保存し、後世に継承することを目的とし、事業費の助成を行う。							
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業				
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業				
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業				
			説明	<ul style="list-style-type: none"> ・檀原市補助金等交付規則 ・市内各地域の伝統的な行事を保存し、後世に継承することは市の責務である。 ・事業費の助成を行うことで行事運営を支援する。 				
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない		
			説明	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で伝統的行事等への参加者(特に児童)の減少や実施団体の高齢化で事業費の捻出が困難になることや見学者の増加により事業開催費のみならず見学者への対応にかかる警備費等の経費も大きな負担となっていることから、資金難により行事が存続できなくなる可能性がある。 				
指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	伝統的行事見学者数(ほうらんや+練供養)		6,000	6,500	5,500	5,500	6,000	6,500
活動指標①	行事開催件数(広域的地域催行事を除く)		13	13	13	13	13	13
活動指標②								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		3,876	3,942	3,911	3,942	3,942	
	歳入(b)	受益者負担額						
		国県補助金等その他						
	(a) - (b) = 一般財源		3,876	3,942	3,911	3,942	3,942	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.35	0.65	0.65	0.90	0.90	
		人件費(c)	2,192	4,032	4,032	5,583	5,583	
トータルコスト(a)+(c)		6,068	7,974	7,943	9,525	9,525		
単位当たりコスト	計算式等							
備考(これまでの実績等)								

CHECK	有効性評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の向上のため、行事案内や開催スケジュールを各種媒体を通じて告知することにより県外からの見学者が増加している傾向にある。 ・一部の行事は知名度も上がり、見学者が増加する傾向にある反面、少子高齢化の影響で行事の継承が困難になりつつある行事もある。 						
評価	効率性評価 経費削減は可能か	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	伝統的行事等の内容、開催スケジュールの告知の強化により県外からの見学者も増加し、市の観光振興に寄与している。						
ACTION	具体的などうすることにより(手段) どんなことが期待できるか(効果)	説明	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる		
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施団体の構成員の減少や財政難の中、行事存続のためには助成額の減額は難しいが、補助対象経費の項目については精査する必要がある。 ・また、各行事ごとの補助金交付要綱を策定し、補助対象経費の項目の統一化を行う。 							
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	説明	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	D	
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業費の一部として助成を継続して行っていく。 ・行事内容や開催スケジュールの告知を各種媒体を通じて行うことにより、本市の伝統的行事等への理解を深め保存や継承を促していく。 							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	観光イベント実施事業								
担当課名	観光課			課長名	山崎 貴浩				
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
予算事業名	各種行事助成事業費・観光対策費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
対象	市民および市外者			事業の内容説明	1. 「春の神武祭」行事助成事業 4月3日に行われる「神武天皇祭」に合わせて開催される「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭り実行委員会に事業費の助成を行う。 2. 「榎原夢の森フェスティバル」行事助成事業 例年10月に行われる。平成24年度で開催11回目を迎えた。実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行う。 3. 藤原京イベント開催事業 95年に開催された「ロマンピア藤原京」の後継事業として榎原商工会議所に事務局を置く実行委員会が開催してきた「ムーンライト藤原京」を平成23年度より本市の主催事業として実施する。夜間から昼間のイベントとし、家族連れを対象に藤原宮跡という立地を活かした巨大迷路を開催。				
事業の目的	広域的地域催行事を通じて榎原市の賑わいを創出し、観光客の誘致につなげることを目的とする。								
妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	「春の神武祭」は、奈良の三大祭りという位置づけであり、また、藤原京イベント開催事業については榎原市が掲げている世界遺産登録推進事業ともリンクする事業であるため企画段階からの関与、事業費の助成が望ましい							
やめた場合の影響は	1	1	非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
説明			神武祭は地域において連綿と受け継がれてきた祭事であり、実行委員会が実施する「春の神武祭」を取り止めたとしても「神武祭」自体は実施される。4月の第1週は季節的に集客には不利な時季であるので、別のイベントを夏くらいに立ち上げるということも想定される。「春の神武祭」「夢の森フェスティバル」も予算的に市の補助金が大部を占めているので助成を取り止めると実施が立ちいかない。						
指標の推移 成果指標 活動指標① 活動指標②	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	来場者数(神武祭+夢フェス+ラビリンス)		95,100	150,000	143,000	150,000	140,000	160,000
	活動指標①	神武祭チラシ配布数			82,000	61,000	60,000	65,000	70,000
	活動指標②	夢フェス実行委員会回数(幹事会回数)		9	9	7	7	7	7
DO 実施 コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			20,807	42,370	41,694	44,820	31,920	
	歳入(b)	受益者負担額							
		国県補助金等その他		3,333			650		
	(a) - (b) = 一般財源			17,474	42,370	41,694	44,170	31,920	
	正職員	従事者数(単位:人)		13.50	13.50	13.50	16.50	15.50	
		人件費(c)		84,564	83,741	83,741	102,350	96,147	
	トータルコスト(a)+(c)			105,371	126,111	125,435	147,170	128,067	
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤原京イベント開催事業」は、祭日が土曜日と重なったため期間を1日短縮したが昨年の2倍に迫る来場者があった。 ・「夢の森フェスティバル」は、2日間で75,000人の来場があった。 ・「春の神武祭」は期間中50,000人の来場があった。 						
	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
	説明	橿原市を代表する3大イベントとして市内外からの来場者は年々増加しつつあり観光の振興に大きく寄与している。							
CHECK 評価	効率性評価 経費削減は可能か		2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる		
		説明	更なる集客やイベントのPR強化により、イベント開催による収益や企業からの協賛金を募ることにより事業費に占める補助金の比率を下げることで、低減やイベント内容の充実を図ることができる。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・「春の神武祭」については、奈良県の三大まつりと認知されるようイベント告知、イベント内容の充実を図る。特に京阪神や中京地域からも誘客があるよう友好的告知手段を検討していく。集客対象も県内に留まらず広域圏での誘客を展開する。 ・実施団体である実行委員会等がイベント開催において収益を生む方策、企業からの協賛金を募る方策を進めることで市の負担を軽減する。 							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直しながらかける	3 縮小する	課内優先度	B		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	<ul style="list-style-type: none"> ・「春の神武祭」は、4月3日の「神武天皇祭」に併せて開催期間を1週間としてイベント内容を充実させた。行政にありがちな同じ内容での継続実施は行わず、予算の範囲で創意工夫のある企画を実施する。 ・橿原市を代表するイベントとして告知や広報を展開していく。 ・藤原京イベント開催事業については、世界遺産登録ともリンクするため、巨大迷路を核としながらアトラクションに創意工夫を行い、藤原京のPRに繋げる。 				

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業					
事務事業名	(社)観光協会運営・事業助成補助事業										
担当課名	観光課			課長名	山崎 貴浩						
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち								
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興								
予算事業名	観光対策費										
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象	一般社団法人 檀原市観光協会			事業の内容説明	・(一社)檀原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○檀原市観光協会運営補助金 ○檀原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・檀原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)						
事業の目的	・(一社)檀原市観光協会が、観光立市を目指す檀原市にふさわしい事業を展開する観光の担い手となるとともに、協会事業により多くの観光客を集客することを目的とする。										
妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	3	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業							
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業							
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業							
	説明	・檀原市補助金等交付規則 ・観光施策における行政が観光企画、協会が事業実施という役割分担を進めていくうえで協会の財政基盤が整っていない現状では、市の関与が必要である。									
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない					
	説明	財政基盤が弱い協会では、人員削減、事業縮小となり、観光の担い手としての役割を果たせない。									
D O 実施	指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	協会事業数			35	35	32	35	35	40	
	活動指標①	観光協会HPアクセス件数			36,000	37,000	53,000	55,000	57,000	63,000	
	活動指標②	ボランティアガイド案内客数			8,329	10,000	8,348	9,000	10,000	10,000	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み		
		歳出(直接事業費)(a)			49,411	48,667	46,105	22,112	22,412		
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			49,411	48,667	46,105	22,112	22,412		
正職員		従事者数(単位:人)			0.25	0.20	0.20	0.35	0.30		
		人件費(c)			1,566	1,241	1,241	2,171	1,861		
トータルコスト(a)+(c)			50,977	49,908	47,346	24,283	24,273				
単位当たりコスト	計算式等										
備考(これまでの実績等)											

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	人員面での体制強化が図られたことから、急激な発展は望めないが成果は着実に向上している。							
	効率性評価 経費削減は可能か	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	協会は、本市観光施策における事業(誘客事業、観光ボランティア事業、観光親善大使「さらら姫」事業、春の神武祭、藤原京イベント等)の担い手として観光振興に大きく寄与している。							
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	協会が本市の観光事業の担い手という役割分担を進めていくうえで、さらに多彩な観光情報の発信、観光イベントの開催などを行うことで、より多くの観光客を集め、協会会員数の増加や事業収益の獲得へと結びつけることが可能となり、その結果、財源面での協会の自立を進めることになる。								
	どんなことが期待できるか(効果)									
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	C			
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	プロパー職員の増員が図られ、既存事業を元に、時流に応じ変化に富んだ業務を実施し、観光交流センターを基盤とした情報発信を行っていく。							

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業		
事務事業名	観光啓発事業							
担当課名	観光課				課長名	山崎 貴浩		
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち					
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
予算事業名	観光対策費							
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度	
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	電話、メール等での観光問い合わせの回答、パンフレットの作成配布、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究、各種情報発信、都市圏での誘客事業(観光協会への委託事業)などを継続して行っている。八木駅前のナビプラザでは、各種観光調査や中南和の観光情報の収集、イベントスペースでの展示などにより、様々な広域的な情報発信を行っている。平成24年には中南和広域観光協議会を立ち上げ、中南和地域の一体的な観光施策の展開にも取り組み始めている。			
事業の目的	本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本紙の観光資源に関心を持ち、本市に観光に訪れることを目的とする。							
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業				
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業				
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業							
	説明	市が企画し、観光協会が実施するという役割分担のもと観光事業を進めている。						
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
		説明	観光立市を掲げている本市において、事業を取りやめることで誘客が滞り、観光客が減少する。					
指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	観光客総数		3,690,539	3,700,000	3,977,817	4,000,000	4,100,000	4,400,000
活動指標①	観光パンフレット配布数		113,470	120,000	116,630	120,000	125,000	140,000
活動指標②	誘客(委託)事業実施件数		6	6	4	1	1	1
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		27,114	12,780	12,355	36,167	22,598	
	歳入(b)	受益者負担額						
		国県補助金等その他	14,958			24,796		
	(a) - (b) = 一般財源		12,156	12,780	12,355	11,371	22,598	
	正職員	従事者数(単位:人)	2.15	2.00	2.00	1.70	1.80	
		人件費(c)	13,468	12,406	12,406	10,545	11,165	
	トータルコスト(a)+(c)		40,582	25,186	24,761	46,712	33,763	
単位当たりコスト	計算式等							
備考(これまでの実績等)								

PLAN
計画

DO
実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、観光客が増加すると思う。						
	上位施策 への貢献 度はどう か	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	情報発信等の観光啓発は、観光行政の根幹をなす事業として、観光の振興に大きく貢献している。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	現状を維持したままコストを低減できるのは、観光パンフレットの作成であるため、引き続き、有料広告の掲載などを検討する。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	大都市圏での誘客事業の充実、鉄道事業者・旅行事業者へのはたらきかけ、魅力ある観光啓発物品の作成と効果的な配布・掲示、広域的な観光ルートの設定による個々の観光資源の魅力増進など、本市観光に関する総合的な広報活動の活動の展開により、集客を図る。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直しながらかける	3 縮小する	課内 優先 度	A		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する					
		説明	経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、主に首都圏、中京圏をターゲットにした効果的な観光啓発を実施する。						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		ソフト事業(任意)		○ 内部管理・維持管理事業					
事務事業名	檜原市観光交流センター管理運営事業								
担当課名	観光課		課長名	山崎 貴浩					
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
予算事業名	観光交流センター管理運営費								
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成 年度				
対象	檜原市観光交流センター		事業の内容説明	観光交流センターを機軸とする複合施設(観光・子育て・相談・男女総合参画・市民活動等)を管理運営する。					
事業の目的	大和八木駅前を広域的な観光拠点とすることで、観光客の利便性を向上すると共に、市民交流の場として賑わいを創出することを目的とする。								
妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	観光情報拠点、市民と観光客の交流の場、賑わい創出の場として、市が設置した施設であるため。							
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	市から観光情報拠点が消滅することになり、観光客の利便性が低減し、来訪者が減少する。						
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数		211,403	240,000	258,234	270,000	280,000	300,000
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)		55,959	51,555	49,482	48,655	48,655	
		歳入(b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他						
		(a) - (b) = 一般財源		55,959	51,555	49,482	48,655	48,655	
正職員		従事者数(単位:人)	0.20	0.35	0.35	0.45	0.45		
		人件費(c)	1,253	2,171	2,171	2,791	2,791		
トータルコスト(a)+(c)		57,212	53,726	51,653	51,446	51,446			
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	平成23年度4月末の開館以来、想定数以上の利用者があり、一定の成果があがっている。						
	上位施策 への貢献 度はどう か	4	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	橿原市に列車やバスツアー等でこられる観光客の玄関口として機能は高い。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	指定管理者による施設管理によりコスト低減に努めているが、今後は修繕や改良等も必要であり、削減の余地はあまり無い。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・開館後2年が経過したので、今までの業務や取り組みを見直し、より効果的な施設運営の手法を確立する。 ・2階イベントスペースでの賑わいの創出や大型LEDビジョンでの観光PR、1階観光センターと物産コーナーの展開等を通して、橿原市を中心に広く奈良県中南和地域の普及啓発や連携事業を実施する。 							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	-		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する					
		説明	引き続き、本紙の観光や地域住民の交流の場として賑わいを創出し、快適に過ごしていただける施設整備を行う。						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月12日)

ソフト事業(義務)		ソフト事業(任意)		○ 内部管理・維持管理事業				
事務事業名	観光利便施設事業							
担当課名	観光課		課長名	山崎 貴浩				
総合計画の位置付け	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち					
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
予算事業名	観光対策費							
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成			
対象	観光施設		事業の内容説明	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の設置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原京跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務				
事業の目的	快適な観光を楽しめるよう観光客の利便性の向上を図ることを目的とする。							
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業				
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業				
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業				
	説明	観光客を迎え入れる利便施設であり、公共施設であるため						
やめた場合の影響は	1	1	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない		
		説明	利便施設が利用不能になると観光客の満足度が下がり、来訪者数が激減する。					
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	施設案内数(夢ら咲長屋+藤原京資料室+奈良文化財研究所展示室(休日のみ))	29,768	35,000	36,555	37,000	68,000	40,000
	活動指標①	案内道標設置数	123	123	123	123	123	123
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
		歳出(直接事業費)(a)		7,272	11,393	10,153	11,830	63,830
		歳入(b)	受益者負担額					
			国県補助金等その他					
		(a) - (b) = 一般財源		7,272	11,393	10,153	11,830	63,830
正職員		従事者数(単位:人)	0.75	0.75	0.75	0.75	0.80	
		人件費(c)	4,698	4,652	4,652	4,652	4,962	
トータルコスト(a)+(c)		11,970	16,045	14,805	16,482	68,792		
単位当たりコスト	計算式等							
備考(これまでの実績等)								

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	
		説明	施設での観光案内件数は伸びていることから、成果の向上が認められる。観光道標については、一定数の整備が進んでいる。					
	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	観光客が迷わず目的地に着き、専門ガイドによる十分な説明を受け、清潔なトイレを利用することで、観光の振興に大きく貢献する。					
効率性評価 経費削減は可能か	1	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	説明	トイレの管理や案内所での案内は、ボランティアの要素が大きく、コスト低減の余地はない。また、案内道標は老朽化して判読できないものが増えつつあり、抜本的な修繕が必要とする時期にきている。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	案内道標、観光案内板、道路標識については、老朽化が進んだものから順に、景観に溶け込み、わかりやすさに重点を置いた整備を継続して実施する。 施設案内については、今後も適正な管理に努めると共に、不具合が生じた場合には、即対応できるように引き続き施設の状況を常に把握する。						
	どんなことが期待できるか(効果)	本薬師寺跡周辺に観光バス等も利用できる駐車場を整備し、団体観光客の受入れ、近隣への迷惑防止を図る。						
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	-	
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	・施設の適正な維持管理や運営を継続して行うと共に、観光道標の老朽化したものより順次標識を整備し、わかりやすい観光案内を目指す。また、本薬師寺跡周辺の土地を購入し、駐車場を整備する。			